

約束がある食べもの

有機JASの実状

認定事務局

有機農業の実施状況

— Mさん、ところで、有機農業というのはどのくらいの農家さんがやっているんですか？

M はい。有機JASの認定を取っている農家数は農水省の発表では約4千戸となっています。また認定圃場は全国の耕地面積の約0.21%です（平成23年度末現在）。

米0.21%ということは500枚のほ場があったら、その中で認定されているのは1枚だけということですね。

則 それでは米倉師匠はその貴重な認定者の一人なんですね。

耕 いやあ、上等だね！

米（確かに極めて希少な生物だけど・・・）

M また日本国内で生産される農産物

に占める有機農産物の割合は0.24%です（平成23年度実績）。この率は毎年わずかずつですが高くなっています。これは国内の農業生産が低迷する中で、有機農業が何とか頑張っている結果とも言えます。（図1）

— 国は確かに有機農産物を5割増にするとという目標を何年か前に出していましたよね。

米 それには遠く及んでいないわね。

M 自然農法センターでも新規申請が来る一方で、やめていく農家さんもあり、認定農家数はここ数年、横ばい状態が続いていますね。

則 認定をやめてしまう原因はどんなところにあるんですか、Mさん。

M この認証制度が始まって10年以上が経ちましたが、当初認定を取られた農家さんも今では高齢となり、

記録作成が負担になってきたり、あるいは、元々有機表示をしなくても販路に困らない農家さんもありました。そういう方たちは、手間とコストをかけてまで続けていく意味があまりなくなってきたり認定を取り下げる、という理由もありますね。

耕 それに検査員からいじめを受けて嫌気がさしてやめる人もいますよ。

— そうなんですか？

米 何言ってるんだよ、あんた。Mさん達は私たちが事故を起こさないように見守ってくれているんだよ。

M 恐縮です。規格や法律から外れないようにしようとするとうとうして厳格にせざるを得ないところがあり、認定事業者さんには本当にご苦労をかけていると思っています

登場人物



M 検査員 (M)

登録認定機関の検査員。耕吉のような危なっかしい認定農家を捨て置かず、コンサルタントすれすれの指導をする。



結城則子 (則)

一の妻。夫を信じるあまり、記録確認がおろそかになりがちで危ない格付担当者。



結城一 (一)

耕吉を有機栽培の師匠と仰ぐ新規就農者。米倉家とグループを組んで有機JAS認定を受けている（生産行程管理担当者）。新婚ほやほや。認定もほやほや。



米倉米子 (米)

耕吉の妻（格付責任者）。夫の尻をたたきながら記録を作らせている。有機JASをよく理解している。



米倉耕吉 (耕)

有機JAS認定を取得してお米を生産している農家（生産行程管理責任者）。栽培の腕は確かだが、有機JASの理解度は危なっかしい。晩酌が生きがい。



す。でもそれは決して我々の保身のためにやっている訳ではなく、認定者の皆さんの認定継続と有機農業の発展を願うことなんです。耕ちよっと冗談が過ぎたようだな。すまんね、Mさん。

M いえいえ。認定者さんのお気持ちにはよく分かりますので。

米 この認定が始まった当初は名譽的な意味合いや、国からのお墨付きのような意味合いで認定を受けた農家さんもたくさんいましたよね。

M 特に自然農法を長年やってこられた農家さんは周囲からの理解がなかなか得られずにご苦労されてきたと聞いていますから、それが一転して国が認めた基準をクリアした農家になったという事は、それはどれほどの喜びであったかという事ですすよね。

耕 いやあ、まったくだ。俺のような変わり者でもグローバルな基準を満たしているってことなんだからな。こんな時代がやってくるとは夢にも思わなかったさ。

M この認証制度によって、有機の市場は「閉じられた流通」から「開かれた流通」に変わったともい

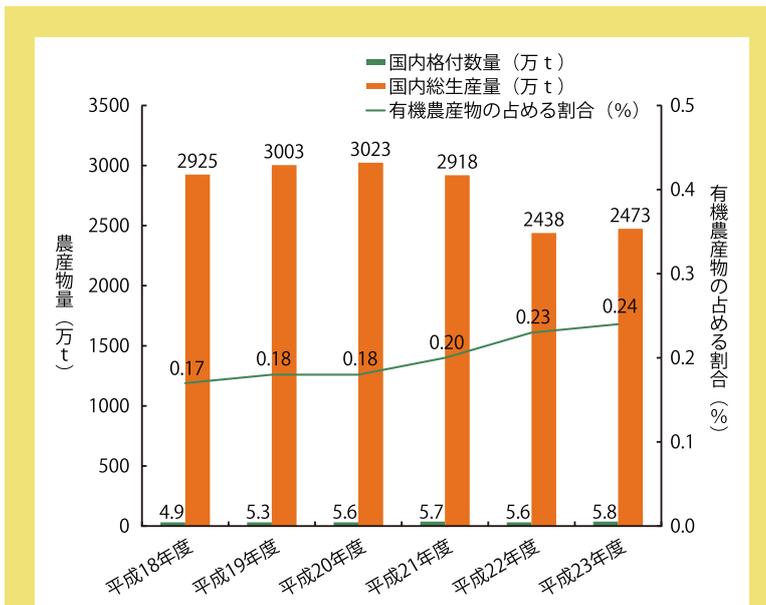


図1 国内総生産量と有機農産物の国内格付け数量及び割合 (農林水産省「有機農業の推進に関する基本方針における国並びに地方公共団体が行う施策及びその状況」より)

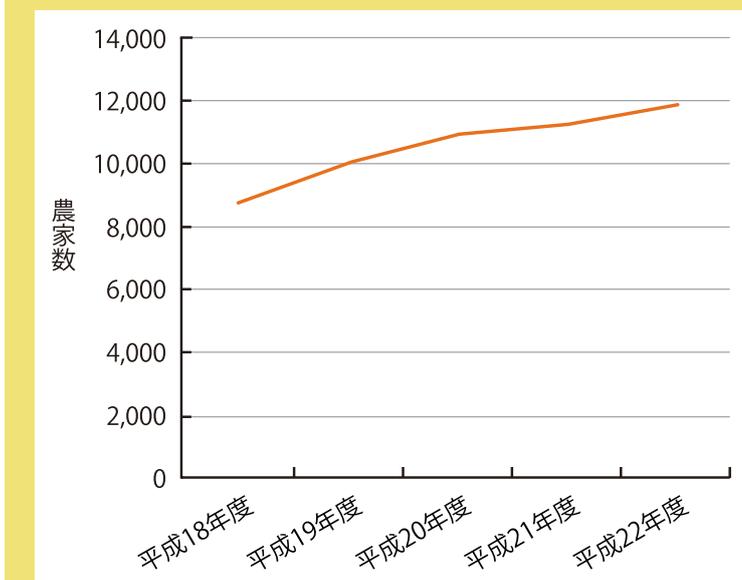


図2 有機農家数(推定)の推移 (農林水産省「有機農業の推進に関する基本方針における国並びに地方公共団体が行う施策及びその状況」より)

ます。有機認定を受けている農家さんはまだまだ少ないですが、有機農業がここまで来れた背景にはたくさんの方の自然農法や有機農業の先達・先輩達が築いた礎いしづえがあったことを忘れてはいけないと思っています。

一 農水省の補助事業で行った調査報告書では、有機JAS認定取得農家以外に有機農業を実施している

約0・5%の農家が有機

農家数は約8千戸と推定されていますよ。(注1)

M はい、有機JASの認定農家数約4千戸と合わせると約1万2千戸となり、全国の農家数252万戸の0・47%、耕作面積で0・36%、総生産量で0・35%を占めることが分かったんです。(図2)

また有機農業の経営主の平均年齢は一一般の農業のそれに比べて約7歳若く、就農と同時に有機農業を始めた人は調査対象者の43%もい

たんです。つまり有機農業は徐々に若い人たちに受け継がれたり、あるいは新規参入が増えていっているっていいかもしれませんね。

米 そういえば一ちゃんも就農と同時に有機農業だもんね！

耕 則ええ。でも認定を受けていない有機農業農家を足してもやはり1%には届かないんですね。

注1) 平成22年度有機農業基礎データ作成事業報告書 (<http://www.moagri.jp/hojojigy/index.html>)

M 有機農業推進法で推進を図るとし

ている有機農業の生産方法は、基本的には有機JASのそれと同じである。国は説明していますが、この調査で推定された約8千戸の農家のうち、農林規格を満たした栽培を行っている農家が果たしてどれくらいいるかについては、詳しく調査されていないと思います。

M 則つまり、いわゆる「自称有機」と「有機JAS」では実際には大きな開きがありそうだという事でしょうか。

M 詳しくは実態を把握しないことには何とも言えませんが、その可能性は高いと思います。有機JASでは特に記録作成が欠かせませんし、使える資材もかなり制限され、毎年認定料金を払わないといけませんからね。よほど意識の高い農家さんでない限り続けていくことは容易ではありませんね。
一 認定に必要な記録作成は簡単にはならないのでしょうか？

作り方が約束された農産物

M 有機JASは生産方法を規定している農林規格（特定JAS規格）ですから、それを証明するにはど

うしても記録が必要なんですね。

(図3)

則 真面目に規格を守って懸命に栽培している米倉師匠夫妻はやはり素晴らしいっていいことですね！

米消費者の皆さんもそのところをよく理解してもらった上で、認定農家を応援してもらえると私たちもやりがいがあるわね。

M その点は我々登録認定機関のピール不足もあるかもしれませんね。米倉さん達がどれほど頑張っ

て認定を続けているか少しでも消費者に理解されるようにこれからもお啓発に努めます。

則 その「生産方法を規定している農林規格」についてももう少し教えてください、Mさん。

M そうですね。例えば、富士山のふもとから頂上まで登るとして、その行程はたくさん考えられますよね。登り口はたくさんあるし、途中で休憩したり、寄り道をしたり。則 そうですね。何通りでも考えられますよね。

M それを頂上に登りついた、ということだけで合格とするのが一般JAS規格、その道のりについて「約束」をきちんと守って登るのが特



図3 一般JAS規格と特定JAS規格の違い
一般JAS規格はできあがった製品の品質・成分等を分析することで合格が決まる。一方、特定JAS規格（有機JAS等）は作り方を基準化しているため、その生産方法（行程管理）の記録が不可欠となる。

注2) 農林水産省パンフレット「約束がある食べもの」
(http://www.maff.go.jp/j/jas/jas_kikaku/pdf/yuuki_pamph_a.pdf)



約束は記録で確認する

則 記録って何だか認定機関のために作っているというか、作らさている気がしていたけどそうじゃないんですね。

M そうなんです。自分のためであり、食べてもらう消費者のために責任と誇りを持って記録を残すんです。

則 うわぁ、ますます師匠はかっこいいですね！

一 特定JAS規格は作り方の基準ですが、それ以外のJAS規格とはどういふものなんですか？

M はい。それは「一般JAS規格」と言つて、色、香り、味、水分や強度など、品質について定めています。

一 ところで、有機の認定を取るとやはり販路が広がったり、価格面でも有利になるんですか？

M 一概には言えませんが、先ほどの調査で販売価格を調べたところ、慣行農産物に比べ、自称有機の農産物は約46%、有機JAS農産物は約67%高いという結果でした。これだけを見ると認定を取っている方が高値で買い取ってもらえるように思えますが、実際にはケー

スパイケースで、認定を取る前と価格は変わらないとか、逆に認定を取らないと取引を打ち切ると言われてやむなくコストをかけて苦

農家さんもいるのは事実ですね。

則 そういう意味では消費者や流通業者がもっと認定者を応援してあげることが大切ですね。

M はい。有機農業推進法があるとは言え、農水省としても有機農業だけに肩入れすることはできないので、消費者自らが有機農業を選択し、支援することを暗に期待しているのかもしれない。

則 私ももっと頑張つて、友達や知り合いに有機農業をアピールしてみます。

海外有機

一 話は変わりますが、有機農産物や有機加工食品は国内だけでなく海外で作られて輸入されるものも相当あると聞いたんですが・・・。

M そうですね。認定者が格付、つまり有機JASマークをつけることができる跟自己判断した数量を毎年農水省に報告し、それを農水省が取りまとめて年度ごとに「格付

実績数量」として公開しています。平成23年度の格付実績では、国内で格付された有機農産物が約5・8万tに対して海外で格付されたのが約93万tでした。(図4)

則 じゅ、16倍もの海外産有機農産物が日本になだれ込んできているんですか!?

M いえ、実際に国内に輸入されている海外産有機農産物は約6・8万tです。また有機加工食品は国内格付が約9万t、

海外格付が約19万tでそのうち国内に輸入されているのが約5万tです。

一 海外での格付数量と実際に日本に輸入される数量に大きな開きがあるのはなぜですか？

米 海外で生産される有機食品は日本だけでなく、EUや

アメリカ、オーストラリアなど各国に輸出できるようにいろんな国の有機認証を取得しているのよ。

則 そうですね、海外の有機加工食品って確かにいろんなマークが表示されているわね。

一 私たちもTPPを逆手にとつて、海外に輸出できる品質の高い有機農産物を作っていきたいですね、師匠！

耕おう、そこなくっちゃ。(岩堀寿)

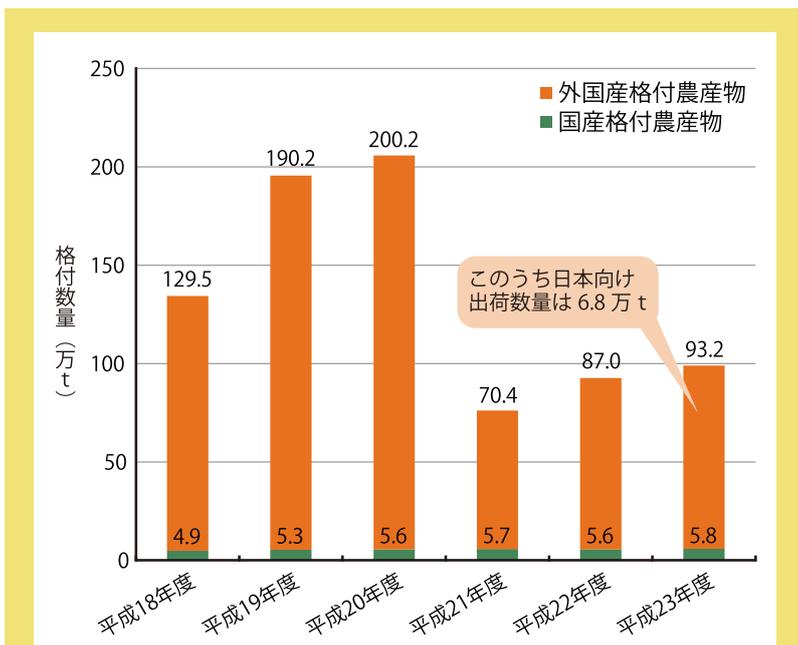


図4 有機農産物JAS格付実績の推移(国産・外国産)
(農林水産省ホームページ有機食品の検査認証制度より)